

活気あふれる人魚の里のふるさとづくり (平成26年度認定)



現在の星野は64年前の計画移民とその家族、本土からの移住者で構成され星野公民館を中心に星野・南星野・野原・番屋からなる約55世帯150人程の集落である。

集落の目標に、①「農林漁業に関連した農山漁村の伝統文化の保全、復活等に向けた活動」 ②「個性的で魅力のある地域固有の風景づくり等に向けた活動」 ③「農山漁村に存在する地域資源を活用した村おこしに係る活動」を掲げ、目標を達成する為に各種勉強会や講習会・検討会、地元農産物を使った特産品開発、学児奨励会(未就学児～中学生等まで)を独自に行っている。

星野に暮らす人々は集落住民としての意識が高く、敬老会などの行事を住民一同で行うほか、周辺道路の緑化活動や植栽の維持管理作業、農道清掃作業等に積極的に取り組んでおり、住民が一体となって住みよい地域作りを行っている。また、星野地域に伝わる人魚伝説を活用した「星野夏祭り」を開催し、さらにそれをホームページで全国に発信するなど、地域の魅力を高める新たな取り組みが行われている。

このように、住民が主体となって魅力ある集落づくりに取り組んでいることから、「沖縄、ふるさと百選」集落部門の認定を受けた。



共同売店横の人魚像



敬老会



星野夏まつり



海岸清掃活動



フラワーロード植樹作業



人魚の浜